

# 甲斐市立竜王東小学校 自己評価書

令和3年2月15日（月）作成

校長 内藤 好文

記述者 教頭 横山 啓二

## 学校教育目標

人間性豊かで主体性に富んだ児童の育成

- (1) よく考え、進んで学ぶ子ども（自主性、創造性）
- (2) きまりを守り、思いやりのある、心豊かな子ども（社会性、道徳性、情操性）
- (3) じょうぶでたくましく、最後までやりぬく子ども（健康な心身、強い意志）

## 学校経営方針

- (1) 多様な学習指導と幅広い教育活動の展開及び組織的、継続的な評価と改善
- (2) 問題解決的・体験的活動の展開、オープンスクールとしての施設・設備やボランティアなどの人的資源を活用した確かな学力の育成
- (3) 全教育課程を通して、好ましい人間関係を育成し、生き方の基礎を培うキャリア教育の推進
- (4) 体育・スポーツおよび健康・安全に関する資質・能力の育成
- (5) 学校、保護者、地域との連携を図った児童の「安全・安心・安定」を基盤とし、信頼され開かれた学校づくりの推進

## 1 全体評価

- 学校経営方針に基づき、教育目標の実現に向けて、一人一人の教職員がそれぞれの職務を遂行してきたことにより、教育活動全般にわたって、児童と保護者から肯定的な評価を得られた。本校の学校評価に係る総合的な評価は概ね良好な水準にあると考えられる。
- 学校教育目標が具体的な行動目標として示され、それぞれの教職員が学校教育目標の具現化に向け、教育実践を行っている。
- 学校教育目標の具現化に向け、校務分掌が有効に機能し、全教職員が主体的に学校運営に参画している。
- 校内研究の研究主題である「言葉による見方、考え方を働かせ、学びを深める児童の育成」に沿って授業改善に取り組み、児童の実態に応じて学力向上に向けた学習指導がしっかり行われている。新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、更に研究を推進していく必要がある。また、外国語やプログラミング学習、教科化された道徳の評価などへの対応を組織的に行っていく必要がある。
- 全ての教職員が一人一人の児童と積極的にコミュニケーションを取り、教職員間での情報共有が適切に行われ、その結果、子どもたちが楽しい学校生活を送っている。
- 保護者や地域の方からの積極的な支援をいただいていたが、今年度はコロナ禍により協力をいただけることが制限されてしまった。登下校の見守りなどの安全指導やPTAの一部の活動などにこれまでと変わらぬ協力をいただき、学校教育活動を推進することができている。
- オープンスペースや広い校庭など学校の施設や設備を生かし、コロナ禍でも感染症対策を踏まえて、学校全体で特色ある教育活動を推進している。

## 2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

○「教職員自己評価」「児童アンケート」「保護者アンケート」の3つの調査を実施した。A評価（とても思う）とB評価（思う）を肯定的評価として捉えることとした。また、それぞれの評価を点数化し、（A：4点，B：3点，C：2点，D：1点）小数第一位までの概数で数値化し、項目ごとの平均値を前年度と比較した。

### I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況

- ・7つの評価項目全てにおいて肯定的評価の割合が100%であり、評価の平均値も4つの項目で3.6ポイントを超える高い値となっており、概ね良好な評価であると言える。学校教育目標が具体的な行動目標として示され、それぞれの教職員が学校教育目標の具現化に向け、教育実践を行っていると考えられる。
- ・全体的に高い評価が得られた中で、「PDCAサイクルを生かした教育活動を行っている。」の項目についてB評価が多く、「職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。」の項目についてはD評価とした教職員が1名あった。

改善策

- ・新学習指導要領の全面实施に伴い、各校でのカリキュラムマネジメントが求められる中、教育活動の評価と改善に絶え間なく取り組んでいくこと、行事の反省を行い、次年度に向けて方向性をきちんと打ち出していくことに取り組んでいく。
- ・校務支援システムを利用し時間外勤務の実態把握を丁寧に行い、管理職や養護教諭による教職員のメンタルヘルスの適切な管理を心がけるとともに、年休の取得等に取り組みやすい職場の環境づくりや補教体制の整備、働き方改革を推進していく。

### II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

- ・9つの項目中、7つの項目でA評価をつけた教職員が多く、評価の平均も3.5ポイントを上回る高い値となっている。学校教育目標の具現化に向け、校務分掌が有効に機能し、全教職員が主体的に学校運営に参画していると考えられる。
- ・「校舎内外の施設設備を定期的に点検し、結果を的確に処理・報告している。」「職務上『報告・連絡・相談』を行っている。」の2つの項目は評価の平均値が3.7ポイント以上と高い評価となっている。施設設備の安全確保と、課題解決に向けた報告・連絡・相談が確実に行われ、安定した学校運営が行われていると考えられる。
- ・「危機管理マニュアルを理解している。」の項目が昨年に引き続き評価が低かった。今年度はいくつかの防災訓練・防犯訓練が中止や簡略化となり、マニュアルに沿った研修が十分にできなかったことが要因として考えられる。
- ・「校内研究に主体的に関わっている。」の項目では、評価の平均値が3.5ポイントとA評価とした教職員が半数であった。甲斐市教育委員会からの研究指定を受け、「言葉による見方、考え方を働かせ、学びを深める児童の育成」を研究主題として、11月の公開研究会に向けて研究を深めた。昨年度までの研究を継続した上で、本校独自の「読みの技能系統表」を作成・活用し、見方・考え方を働かせる授業の創造を目指した結果、多くの成果を残すことができた。
- ・今年度導入された「校務支援システム」であるが、「十分活用できていますか。」の項目については3.0ポイントとB評価とする教職員が多かった。成績処理や旅行命令、休暇

	<p>取得等でやむを得ず使用している感があり、積極的な活用にまでは至っていないと考えられる。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を踏まえて危機管理マニュアルを見直した上で、不測の事態にどう備えていかなければならないのかを考え、より実践的な防災訓練や教職員の研修を実施していく。</li> <li>・校務支援システムについて研修する機会を定期的にとり、便利な機能について周知していくとともに、出勤時と退勤時の勤務時間入力を習慣化し、日常的に校務支援システムに向かうようにするとともに、掲示版やアンケート機能の活用を図るようにしていく。</li> </ul>
<p><b>Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</b></p>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8つの評価項目のうち6つにおいて肯定的評価の割合が100%であり、うち4項目では評価の平均値が3.5ポイント以上となっている。各学級で児童の実態に応じて学力向上に向けた学習指導がしっかり行われていると考えられる。</li> <li>・ しかし、学習指導に関わってA評価よりもB評価の方が多いものが3項目あった。「主体的・対話的で深い学びの実現」が求められている中で教授方法や授業デザインのあり方の改革が必要とされているが、それらに対する教職員の不安の表れだと解釈することができる。また、コロナ禍により、授業時間の減少による遅れを取り戻すことや感染症対策による学習形態や学習内容の制限などが、その妨げになったとも考えられる。</li> <li>・ 児童アンケートで学習に関わる評価項目の結果を見ると、「先生はよく勉強を教えてくださいますか。」や「国語の授業の内容はわかりますか。」「算数の授業の内容はわかりますか。」といった項目では昨年度よりも評価が上がっている。教職員は自己の指導について控えめに捉えたり、日々の授業実践の中で試行錯誤を繰り返したりしているが、児童にはよい方向に作用していると考えられる。</li> <li>・ 「あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。」の項目について、教職員の評価は、3.5ポイントであったが、保護者の「お子さんは、宿題（課題）を忘れずに行っていますか。」については3.6ポイントとなっている。「お子さんは、宿題の他にも家庭で自主学習（学校からの指示は含む、但し、塾や家庭教師は、除く）をしていますか。」については2.5ポイントと低い評価である。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年間続いた研究指定は区切りとなったが、来年度以降も引き続き校内研究を中心に授業改善に取り組み、よりよい授業づくりを目指す。特に評価規準と評価方法を明確にした授業づくりと、児童の表現力の向上を念頭に置いた授業づくりに努めていく。</li> <li>・ 各学級で行っている家庭学習や自主学習の指導が、家庭でも見える形にして伝える方法を考えたり、家庭学習の手引きの活用をさらに促進したりできるような取組を全校体制で行っていきたい。</li> </ul>

<b>IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</b>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6項目中3項目の評価の平均値が3.5ポイント以上となっている。児童アンケートの結果を見ても、「学校は楽しいですか。」「仲のよい友だちがいますか。」「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。」のそれぞれの項目での評価の平均値がいずれも3.6ポイント以上の高い値となっており、全ての教職員が一人一人の児童と積極的にコミュニケーションを図り、教職員間での情報共有が適切に行われ、その結果、子どもたちが楽しい学校生活を送っていると考えることができる。</li> <li>・ 「生き方教育（キャリア教育・進路指導など）を児童生徒の実態に応じて行っている。」の項目が、他の項目と比べると評価が低い。また児童アンケートの「将来の夢や希望を持っていますか。」の評価の平均値が3.4ポイント、保護者アンケートの「お子さんは将来の夢や希望を持っていますか。」の評価の平均値が2.7ポイント（いずれも前年度より低くなっている）と、この点が本校の生徒指導上の課題であると考えられる。</li> <li>・ 「問題行動（いじめ、不登校等）の早期発見・早期対応ができています。」の項目も、他の項目と比べるとやや評価が低い。本校ではいじめと認知された事例は少なく、重大事態に発展するような案件もなかった。また、児童アンケート「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。」の評価に比べ保護者アンケート「お子さんのことで、相談できる先生がいますか。」の評価が低くなっている。全体的には適切な生徒指導が行われていると考えられるが、今年度は家庭訪問が中止となったり、保護者の方が学校の様子を参観できたりする機会が減ったことが、保護者の低い評価につながったとも考えられる。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度導入されたキャリアパスポートが、教職員と保護者とのよりよい児童理解につながるような活用方法を探っていく。そして、児童の発達段階に応じた継続的なキャリア教育を全ての学年で意識的に実施していく。また、年間指導計画の見直しを行い、各学年での指導事項を明らかにし、キャリア教育の実践を促していく。</li> <li>・ 担任をはじめとする教職員が日常の児童観察が十分にできるような時間と心の余裕を生み出すための業務改善にも引き続き取り組んでいく。また、Q-Uの分析や活用など、質問紙調査の活用方法の研修も継続して行い、教職員のスキル向上を図る。</li> <li>・ 感染症対策を踏まえた授業参観日や学校開放日を設定できるようにするとともに、学校ホームページや安心メール、及び学校・学年便りなどで、児童の様子や学校の取り組みをさらに保護者に発信していくことで、保護者や地域の方の学校理解・教職員理解につなげていくようにする。</li> </ul>
<b>V 地域との連携について</b>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8項目中4項目の評価の平均値が3.5ポイント以下となった。特に「教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」の項目については、0.4ポイントも下がった。また、「保護者や地域の願いに応えるために、学校に対する要望を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。」についても0.2ポイント下がった。これまで学校に来ていただいた外部講師や参観を呼びかけた行事が中止・縮小となり、外部の方をお願いする活動も外部に出かけていく機会も減った影響がでている。</li> <li>・ 「保護者は、PTA活動に協力的である。」「地域・保護者は、児童生徒の安全確保に努めている。」「保護者は、学習指導や生活指導に協力的である。」の3つの項目については昨年度と同様に評価の平均値が3.5ポイントを上回っており、教職員がPTA活</li> </ul>

	<p>動, 安全指導, 学習・生活指導など多くの面で保護者や地域からの協力が得られていると感じていることが分かる。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は外部講師のお願いや地域の方への参観を呼びかけた行事が中止や縮小によって、保護者や地域の方が来校していただける機会が減ってしまった。これまで積み上げてきた地域との連携が途切れてしまわないようにするために、昨年度行っていた学校だよりとPTA新聞の地域への回覧, ホームページでの情報発信など, 学校の様子を地域住民にも知ってもらえるような広報活動を行っていくようにする。</li> <li>・地域人材のリスト化など, 教職員が地域にどのような人材がいて, どのような場面で協力頂けるかを可視化することにより, 地域の教育力を更に効率的に生かしていく。</li> </ul>
<p><b>VI 学校の特色に関して</b></p>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の特色としてあげた項目のうち, 「はげみ学習」についての項目を, 今年度新たに取り入れた「のびっこタイム」についての項目に変更して評価を行った。</li> <li>・7項目中4項目で, A評価をつけた教職員が半数以上いた。本校の教職員があいさつ運動や読書活動, ノーチャイムによる生活などを竜王東小学校の特色ある教育として捉え, 積極的に指導に取り組んでいると考えられる。</li> <li>・たてわり活動については, コロナ禍で活動が制限されてしまったためか0.2ポイント下がった。また保護者アンケートでも評価は下がっている。例年行っていた行事の形を見直し, 感染症対策を踏まえての活動を行っていくことができるようになったが, 行事によってはこれまで参観できたものも参観なしとせざるを得ず, 児童会活動への理解を深めることができなかった。</li> <li>・あいさつに関わる評価を見ると, 児童アンケート「だれとでもあいさつをしていますか。」と, 昨年度の「地域の人と出会ったらあいさつをしていますか。」と質問内容が若干変わっているが, 評価の平均値は3.3ポイントと下がってしまった。保護者アンケート「学校は, 子ども達に学校外でも挨拶をするように指導していると思う。」でも評価の平均値が2.8ポイントと, 昨年度よりもわずかではあるが下がっている。コロナ禍でマスクをつけた生活, 会話を控えた生活の影響も考えられる。しかし, 2学期には児童会本部が児童玄関であいさつ運動を始めたり, 竜王中学校の生徒会によるあいさつ運動も行ったりすることができた。</li> <li>・今年度から創設された「のびっこタイムでの学習指導」についてが, 3.3ポイントと低い評価であった。3～6年生は週4回のうち3回は国語の授業として, 1・2年生は学級創意の時間として家庭学習につながる時間であった。15分間の短時間の中での効果的な学習を行う以前に学習の遅れを取り戻すための時間となったと考えられる。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たてわり活動やあいさつ運動などについて, 新しい生活様式を踏まえての形に変えてきている。コロナ禍の中で, 「これができない」から「これならできる」と視点を変え, 本校の特色が発揮出来るような教育活動のあり方を探っていくようにする。校務分掌による担当職員だけの取り組みではなく, チームとして教職員全員で教育活動・指導に当たっていききたい。</li> </ul>

### 3 まとめ

#### 〈成 果〉

- ・教職員の自己評価では、43の評価項目全てにおいて評価ポイントの平均値が肯定的評価を示す値となっており、本校の教職員が市教育委員会の示す学校評価の各項目を、単なる評価項目としてではなく、日常の職務を遂行するための行動指針（具体的な目標）として意識し、日々の業務に使命感と責任を持って取り組んでいると考えられる。
- ・児童アンケート、保護者アンケートの結果を過去2年間の評価および市全体の評価結果と比較すると、多くの項目が同程度の評価であった。本校が掲げる「安心・安全・安定」の学校運営がなされており、そのことが児童や保護者に評価されていると考えられる。

#### 〈課 題〉

- ・自己評価の結果を見ると、本年度の評価ポイントは下降傾向にある。教職員が自己の教育活動を厳しい目で見つめた結果であると考えられることもできるが、一人一人が自分の実践を振り返ったときに自信を持って「達成できた」と評価できるよう、評価と目標の一体化に努めていく必要がある。
- ・それぞれの調査において評価の低かった項目については、その結果を真摯に受け止め、改善に努めていく。
  - ①主体的・対話的で深い学びを実現し、児童の表現力や学びに向かう意欲を育むための指導方法の工夫と、評価規準・評価方法を明確にした授業の実践。
  - ②児童の発達段階に応じたキャリア教育の実施。（キャリアパスポートの活用）
  - ③地域や保護者との連携のより一層の推進。
  - ④働き方改革につながる、校務支援システムの有効活用。
- ・「学校の新しい生活様式」を実践し、新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、児童の健やかな学びを保障していく。